

主の守りをいただく祈り

今からちょうど30年前の初夏、私は保育園に行った息子が水筒を忘れたのに気がつきました。何か急に胸騒ぎがして、「神様、息子を守って下さい！」と、運転しながら保育園に着くまで祈り続けました。すると保育園の門から私の息子が出てくるではありませんか！保育士が「あっ！お母さん。どうしてここにいますか？たった今、顎を怪我して、病院に行くところです」息子の顔に当てたタオルは血で真赤でした。「バックを掛けるフックの前で転んで・・・目でなくて本当に良かった！」と言うのを聞きながら、私は神様に教えて頂き祈り、神様が守って下さった事を心から感謝しました。

私たちのとりなしの祈りには、守りのための祈りという側面があります。

私たちは気づいていませんが、実は私たちは、この世の主権者・悪魔(サタン)の国に暮らしているのです(1ペテロ5:8)。彼らは自分の領域に生きる、神の子・クリスチャンを陥れようと計画を立て、狙っています。しかし全能の神である主は、私たちと共におられ、守られるように、私たちに示しを与え、祈りを与え、助けてくださるのです。

聖書の学び

I、神の守りの原則

1、私たちは自動的に神の守りがあると思いがやすいが、そういう時ばかりではありません。祈りを通して神は働いてくださるのです。

①もし、エステルの祈りの要請に応じて、ユダヤ人たちが3日間祈らなければ・・・ペルシャ王の前で、彼女は殺され、ユダヤ人たちは滅亡していた。
(エステル4:16)

②もし、ペテロのために、教会で祈らなければ、・・・御使いは遣わされず、牢の門は開かず、次の日ペテロは、ヤコブのように殺されていた。(使徒12:5)

2、祈らないで、得ることができなかったことは多い。

①ヨシュアは神に祈り、7日間大きなエリコの城壁の周りを黙って周る方法を通して、7日目、大地震と勝利が与えられました。(ヨシュア記6章)

②ヨシュアは神に祈らず、次の町小さな町アイを攻めましたが、大敗北に終わり、36名の戦死者を出してしまいました。(ヨシュア記7章)

Ⅱ、時にかなった祈りの時

1、カイロスの時を逃さないで、祈ること。

①ギリシャ語には、「時」を表す言葉が2つあります。クロノスとカイロスです。

- ・クロノス＝時の流れ、普通に過ぎる時間のことです。
- ・カイロス＝特別な時、何かが成される特別な時

②特別な祈りが必要な時があります。

- ・最後の晩餐の終わり、ペテロのために主イエス様は、彼の信仰がなくならないように祈られました。…カイロスの祈りです。(ルカ22:31～32)

③ご聖霊は、カイロスの時を私たちに教えて下さるのです。

- ・ヤコブの殉教の死の後の、ペテロのための教会での必死の祈り(使徒12:5)

2、日々の祈りの中で、教えられる事を大切にして、祈る。

エペソ6:18「すべての聖徒たちのために、絶えず目を覚まして・・・」

「絶えず目を覚まして」とは → → あらゆる示された時(カイロス)を逃さないで
平安が来るまで祈る事を大切にする事

※ふと、気になったり、胸騒ぎがするとき、ご聖霊が教えて下さったと信じて
祈ることは非常に大切です。

Ⅲ、カイロスの祈りの見本

*父なる神様〇〇のために祈ります。

毎日、自分の娘が死ぬ夢を見た人は、娘に隠れて、婿に話し2人で時間を決めて分かれて毎日祈り続けました。1ヶ月後、娘が健康診断を受けました。ダイエットして極端なカリウム不足に陥り、いつ突然死してもおかしくない状態である事が分かりました。主が守って下さったのです。

*〇〇をすべての悪しきことから守って下さい。あなたは、みことばのように
私たちを救い出すとおっしゃいました。(詩篇91:3)

*この祈りの重荷を与えて下さり、祈りを通して〇〇が守られるようにして下さい
た事を感謝します。

*イエス・キリストの名により、サタンの全ての計画を破り下さるよう願います。

*この全てのことを、イエス・キリストの名によって祈ります。アーメン